同窓会報
千南原

第 21 号

平成19年10月1日発行

編集・発行
〒426-8577
藤枝市天王町1丁目7-1
静岡県立藤枝東高等学校
同窓会
電話　054-645-3527
FAX　054-645-3529
同窓生数　22,779名
在学生数　967名
職員数　88名
印刷
〒426-0041
藤枝市高柳1丁目18-23
共立印刷株式会社
電話　054-635-4651㈹

19年総会報告と活動について

平成19年7月7日、藤枝「小杉苑」にて総会が開催されました。今回は、役員総会をもって同窓会総会に替えさせて頂きました。110余名の役員が参加し、18年度決算報告、19年度収支予算案、規約改定及び役員改選について審議して頂きました。決算報告は、記載の通りです。

今年度、会長には槇田氏を再選し、新たに名誉顧問として前アジア開発銀行総裁の千野忠男氏に就任をして頂き、常任委員の久永、三輪の両氏が副会長になられました。また、顧問、常任委員につきましても新たに増員いたしました。新役員名簿は、別添一覧表を添付いたしました。

そして18年度記念事業でありました初代校長錦織先生の銅像を、19年3月18日、学校中庭に移転し学校関係者、同窓会役員にて除幕式を行いました。

山口さん、サッカー殿堂入り

（静岡新聞社提供）

サッカー部OBの山口芳忠さん（36回卒）が、日本サッカー殿堂入りした。県内では2人目。山口さんは9月10日、日本サッカーミュージアムで行われた表彰式で、記念プレートを手渡された。

山口さんは中大2年の1964年に東京五輪、日立入り2年目の68年にはメキシコ五輪と、2度、五輪代表に選ばれた。ハードマークのバックスで鳴らし、メキシコ大会では銅メダル獲得に貢献した。

現役引退後はユニバーシアードや日本代表B、Jリーグ柏レイソルの監督を務めた。

皆様の参加で、輪を広げて下さい

同窓会長　槇田　堯（34回）

役員会のご推挙を受けて総会で承認されましたので、二期目の会長を務めさせて頂きます。三年前、三四回生の若輩者であり身に余る重責と思いつつお引き受けしましたが、役員をはじめとする多くの方のご協力を得てここまでやってこれました。

第一期目、ご案内の通り同窓会活動の基盤の見直しと再構築に取組んで参りました。具体的には、①会報を年一回、全会員に発行する。②名簿の充実と発刊。③規約の見直しと組織づくり。④総会を役員だけでなく全員参加型のオープンなものにしていく等の方針を掲げました。各委員長を中心とした委員会の尽力の結果、多くの成果を上げることが出来ました。また、同窓会館を若干の手直しで復活させることが出来ましたし、事務局も併設して会合や交歓の場として使用されております。

第二期は、これまで築いて来た基盤に立って、更に改善、前進させたいと思っております。「会報」は四年連続で定着しましたが今後はスタッフも増強され内容の充実が期待されます。「名簿」発刊については個人情報保護法の点より暗礁に乗り上げておりますが、本年度中に結論を出します。尚、正確なデーターは事務局で収集しておりますのでご協力下さい。「組織」の件ですが、本部役員については支部との関係を明確化し、常任委員には実行力のある方々、サッカー関係者に加わってもらったし、千野忠男先輩には名誉顧問をお願いしました。支部については全ての支部（藤枝支部のみ準備中）において新しい体制で活動を開始しております。回別については、各年度とも役員を決めて頂き、本部との連携体制が整いました。ようやく藤枝東高等学校同窓会の縦と横が繋がり一体となった活動が出来る体制になりました。今後、オープン総会の定着、二〇一四年「九十周年」に向けての準備、サッカー全国制覇支援活動の強化等々を呼びかけて行きたいと思っております。「至誠一貫」は間違いなく我母校の原点であり、我同窓生の心のよりどころであります。そんな思いを込めて十八年度同窓会記念事業として「初代校長錦織兵三郎先生の像」を本校の中庭に設置しました。私はこのことばを大切に会長を務めさせて頂きます。皆様の温かいご理解・ご支援をお願い申し上げます。

「藤枝東FC」目指せ、日本代表！

試合前、滝監督（右端）の指示を聞く「ジュニアユース」の3年生

藤枝東FCの中心的な存在である「ジュニアユース」の3年生イレブン

先輩諸氏、ご存じですか。いま、「藤枝東フットボールクラブ（FC）」の注目度が急上昇していることを―。

藤枝東FCは、東高サッカー部OB会（橋本忠広会長）を運営母体に、2002年に誕生した。以来、NPO（民間非営利団体）法人資格も取得し、サッカーの普及や強化を図るだけでなく、人間づくり、地域づくりにも貢献したいと、「東高グラウンド」を拠点に、地に足の着いた活動を展開している。

年代、性別ごとにチーム編成し、その集合体というのが藤枝東FCの構成図だ。小学校1－6年生を対象にした「スクール」、中学生年代の「ジュニアユース」、中高年の「シニア40」「シニア50」「シニア60」、それに社会人の名門「志太クラブ」と女性チームの「焼津クィーンズ」が加わった。いまやクラブ全盛時代だが、これほどすそ野の広がった組織は全国でも少ない。

レベルは既に高校生級

組織の中心的存在は「ジュニアユース」である。結成6年目。わが東高をはじめ、県内各高校に貴重な人材を送り込み、高校サッカー界の底上げに貢献している。

全国高校選手権静岡県大会のプログラムをみると、東高の登録メンバー25人のうち、FC出身は7人を数える。このうち河井陽介、村松大輔、平井大樹の3選手は常にスタメン出場。河井選手はU－18日本代表候補でもある。

ジュニアユースは現在、1－3年生合わせて71人。毎週火、水、金曜日の夜と土、日曜日の昼、練習に打ち込んでいる。セレッソ大阪ユースコーチの経験を持つ滝利明監督以下、東高サッカー部OBを主体にしたスタッフが、学年別にきめ細かく指導に当たる。

目標の一つであるU－15日本クラブユース選手権は、今年こそ県予選で敗れたが、昨年は東海大会まで駒を進めた。歩みは決して早くはないが、着実に力をつけていることから、日本サッカー界を担う戦力が巣立っていくことは間違いない。　**加藤訓義（38回）**

責任への自律

校長　杉本　一美

給食費や保育授業料納入の滞り、履修実態の虚構、入学への特別枠対応など、学ぶことを本来とする学校において様々な課題が続いています。自然の中で戯れるとき、その条件整備を他に負わせるような出来事もあります。

一方、それは「学校の考え」であり、「一般にはそう思われない」という常識・非常識の指摘のようなこともあります。

教員を目指し採用試験に挑戦する若者は毎年数十倍の倍率の中で挑みつづけています。教員が、社会的な関心度や注目度から生活全般に多くの制約を負うにもかかわらずこの状況が続いていることは、児童生徒に向けられる思いが熱く、将来を託す若者とのかかわりをこよなく愛するからであろうと喜んではいるものの、学舎（まなびや）から孵化（ふか）することなく自分の学びの歴史そのものを教育ととらえているなら、時代の進展を反映していないことにそれなりの怖さ、危機感も持ちます。

しかし、学校の中からの発想であるからこそできていることも多く、それは利害や成果のみに基づかない、ほとんどすべての意識が児童生徒の成長に注がれていることから発することであると思います。

ところが、はじめの課題の根底は、社会を構成する様々な力の弱体化に起因しているように思えてならないのです。そしてそのひとつが責任の回避から発しているのではないでしょうか。

とりわけ児童生徒を育てていくことには、親の役割を頂点に、保育所、学校そして地域全体がそれぞれの役割責任を負っていることは誰もが認めるところです。ところが、責任はすべて「そこ」にあると周りに転嫁することが多く見られるように思えてなりません。子供を育てていくとき、まずは大人自身が自分に問い掛ける勇気を喚起させたい。そして、成長過程の子供たちを庇（かば）ってしまう前に、褒めて叱って善悪を分からせ責任を負わなければならないことを、身をもって示し継承させることで児童生徒の成長を見守り導いていきたい。

私は、日本全体が本来有している「謙虚」とは、自分自身にこよなく厳しく臨む心であり、これゆえに世界からの信頼を得ることできたのだと思います。この「謙虚」を携え、教え諭し感じ取れる心を、次代を担う若者にたくましく育てなければと願っています。